土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調査名 一級河川　江の川水系　下領家右下谷測量設計地質調査業務委託（通常砂防・公共）

事業名 または 工事名

調査目的及び調査対象 砂防 掘削・掘削のり面

ボーリング名	B-1-4	**調査位置**	広島県庄原市総領町下領家地内			**北緯**	34° 47′ 8.8921″
発注機関	広島県北部建設事務所庄原支所			**調査期間**	2019年 12月 12日 ～ 2019年 12月 13日	**東経**	133° 04′ 20.6354″
調査業者名		**主任技師**		**現場代理人**		**コア鑑定者**	**ボーリング責任者**
孔口標高	T.P. 310.20m	**角度**	180°, 上下, 90°, 0°, 0°	**方位**	北 0°, 270° 西, 90° 東, 180° 南	**地盤勾配**	水平0°, 鉛直, 90°, 32°
総削孔長	9.00m					**使用機種**	

試錐機	YBM　YBM-05D				
エンジン	ヤンマー　NFD-7	**ポンプ**	安田工業　TAP-120		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名（模様）	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	地質時代名	記事
1	308.60	1.60		礫混じり砂質粘土		褐～黄褐		固結した	新生代第四紀	0.35mまでは腐葉土。以深，崖錐堆積物に相当。礫分はφ5～40mm程度である。礫量はやや多い。基質は中砂を多分に含んだ粘土からなる。貫入試料の含水は低い。
2	307.45	2.75		風化安山岩		暗灰～黄褐			中生代白亜紀	割れ目に富み，割れ目に沿って幅広く劣化している。ごく短柱状～岩片状コアが主体をなす。1.73～1.84m間は上砂化が強く，局所的にはDH級をなす。他の区間の岩片は中硬質である。【CL級岩盤に相当する】
3				安山岩		暗灰				概ね10cm以上の短柱状コアからなる。岩芯風化は弱い～認められず，岩片は硬い。全体に割れ目が多く，砕片化を伴うことが多い。6.55～6.85m間，割れ目から岩芯へと風化が進み，岩片も軟化している。局所的にはCL級をなしている。3.2～3.3m間，4.5～4.6m間，4.85～5.0m間，5.1～5.15m間，8.2～8.35m間，割れ目周辺の劣化が強い。8.35m以深のコアは安定してる。割れ目の酸化色は孔底まで続いている。【CM級岩盤に相当する】
4										
5										
6										
7										
8										
9	301.20	9.00								
10										

孔内水位／測定月日: 12/16 6.60

標準貫入試験

深度－N値図: 0, 10, 20, 30, 40, 50

N値	深度 (m)	100mmごとの打撃回数 0～100	100～200	200～300	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
33	1.15	8	11	14	33/300		
	1.45						
	2.00	貫入不能			50/0		
	2.00						
	3.00	貫入不能			50/0		
	3.00						
	4.00	貫入不能			50/0		
	4.00						
	5.00	貫入不能			50/0		
	5.00						
	6.00	貫入不能			50/0		
	6.00						
	7.00	貫入不能			50/0		
	7.00						
	8.00	貫入不能			50/0		
	8.00						
	9.00	貫入不能			50/0		
	9.00						

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	原位置試験 室内試験	削孔月日
				12/12
				12/13